

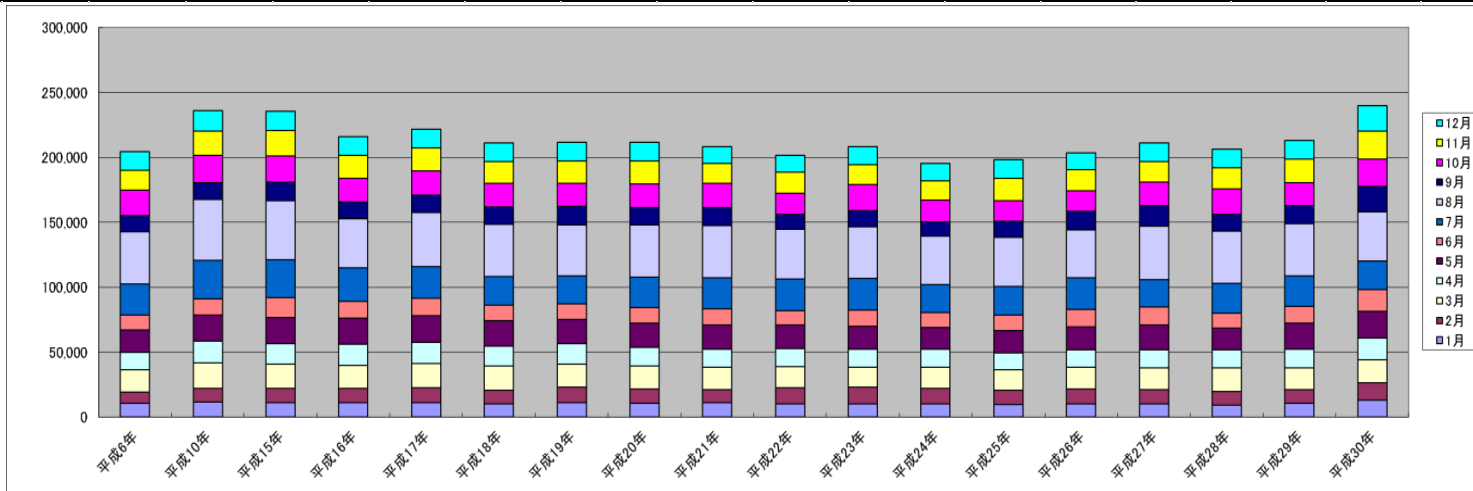
平成30年五島市観光統計



五 島 市

五島市年次別観光客入込調べ（平成6年～平成30年）

月別	合併																		(単位：人／%)	
	平成6年	平成10年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	前年比	月比率
1月	10,583	11,607	11,348	11,068	11,199	10,358	11,197	10,878	11,029	10,243	10,030	10,329	9,949	10,387	10,028	9,074	10,513	13,072	124.3	5.4
2月	8,648	10,750	11,064	10,931	11,313	10,330	11,917	10,716	10,305	12,386	13,039	11,855	11,034	11,431	11,143	10,872	10,771	13,561	125.9	5.6
3月	17,313	19,474	18,665	17,956	18,813	18,794	17,899	17,831	16,903	16,241	15,409	16,452	15,377	16,650	16,952	18,073	16,790	17,479	104.1	7.3
4月	13,594	16,747	15,704	16,174	16,493	15,249	15,502	14,522	14,276	14,148	13,827	13,675	13,025	13,247	13,946	13,621	14,276	16,824	117.8	7.0
5月	17,136	19,971	19,788	20,243	20,199	19,726	18,734	18,365	18,611	17,936	17,888	16,763	17,215	18,080	18,932	16,845	20,100	20,463	101.8	8.5
6月	11,174	12,476	15,393	12,922	13,391	11,985	12,002	12,261	12,495	11,046	12,520	11,507	12,275	13,414	14,032	11,538	12,890	16,713	129.7	7.0
7月	23,951	29,970	29,138	25,865	24,806	21,922	21,642	23,153	23,776	24,380	24,308	21,505	21,940	24,327	20,785	23,016	23,707	22,055	93.0	9.2
8月	40,506	46,510	45,509	37,660	41,304	39,987	39,312	40,125	40,097	38,265	39,809	37,353	37,754	36,613	41,268	40,300	40,187	37,727	93.9	15.7
9月	12,271	13,279	14,332	13,092	13,691	13,806	14,017	13,421	14,154	11,500	12,401	11,199	12,568	14,344	16,032	12,847	13,655	19,923	145.9	8.3
10月	19,818	20,960	20,222	18,141	18,694	18,054	17,717	18,206	18,476	16,245	19,694	16,458	15,790	15,849	17,774	19,383	17,921	21,137	117.9	8.8
11月	15,002	18,412	19,704	17,559	17,559	16,783	17,405	17,702	15,455	16,276	15,498	14,972	16,983	16,207	16,106	16,372	17,844	21,288	119.3	8.9
12月	14,378	15,720	14,848	14,205	14,051	14,140	14,241	14,502	13,006	13,034	13,746	13,356	14,534	13,216	14,318	14,614	14,717	19,889	135.1	8.3
計	204,374	235,876	235,715	215,816	221,513	211,134	211,585	211,682	208,583	201,700	208,169	195,424	198,444	203,765	211,316	206,555	213,371	240,131	112.5	100.0



※H29年までは、航路・航空路の総降客数から観光客の割合を予測し観光入込客数推計。H30年からは航路・航空路の総降客数から、国境離島島民割引者数を控除し観光入込客数推計。

1 入込観光客の概要

平成30年1月から12月までの1年間に五島市を訪れた入込観光客数は、240,131人（前年213,371人）と推計され、前年比26,760人（12.5%）の増となった。五島市になって過去最高を記録した。

	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
観光入込客数	203,765人	211,316人	206,555人	213,371人	240,131人

【統計算出の方法】

- ① 平成29年までは、航路・航空路の総降客数から観光客の割合を予測し、観光入込客数を推計していた。
- ② 平成30年からは、航路・航空路の総降客数から離島住民にのみ適用される国境離島民割引者数を控除。さらに転入者数を減じた数値を観光入込客数として推計。
※算式＝「総降客数－国境離島民割引者数－市内への転入者」

昨年と比較して、入込客数が増加した主な要因を以下に列挙する。

① 世界遺産登録効果

平成30年7月に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が世界遺産登録決定となった。登録決定前のゴールデンウィーク期間中（平成30年5月4日）にイコモスの勧告が公表されたこともあり、この頃よりマスコミへの露出、観光客の増加が目立つようになった。特に秋期・冬期がともに前年比25%以上の増加となっている。

② 外国人観光客の増

世界遺産登録以前より、韓国人キリスト教徒をターゲットに営業活動を実践してきたこと等により、韓国を中心に外国人観光客が前年比190人増加した。

③ 修学旅行生の増

体験民泊を中心に、ここ数年、修学旅行生が順調に増加している。本年も体験型観光の魅力により順調に推移し、平成29年と比較して112人が増加した。

2 季節別観光客の状況と課題

観光客の状況を季節別に見ると、下記のとおりであり、年間通して増加した。

季節別	入込観光客数	前年	前年との比較
春期（3～5月）	54,766人	51,166人	+3,600人（7.0%の増）
夏期（6～8月）	76,495人	76,784人	-289人（0.4%の減）
秋期（9～11月）	62,348人	49,420人	+12,928人（26.2%の増）
冬期（1月、2月、12月）	46,522人	36,001人	+10,521人（29.2%の増）
計	240,131人	213,371人	+26,760人（12.5%の増）

3 交通機関別の観光客の状況と課題

(1) 航空路について

航空路による観光客は、下記のとおりであった。

区間	入込観光客数	前年	前年との比較
福岡-福江 間	50,940 人	41,209 人	+9,731 人 (23.6%の増)
長崎-福江 間			
FDA チャーター便	244 人	432 人	-188 人 (43.5%の減)
航空路 計	51,184 人	41,641 人	+9,543 人 (23.0%の増)

航空便の就航率（全下り便平均）は、下記のとおりで年間平均 93.3%と低下した。

特に多客が見込める夏季の 7 月・8 月に天候不良及び機材故障による欠航が合計 52 便発生。

季節別	就航率	前年就航率	前々年就航率
春期（3～5 月）	95.8%	96.4%	93.8%
夏期（6～8 月）	94.1%	95.0%	95.8%
秋期（9～11 月）	93.8%	94.1%	98.2%
冬期（1 月. 2 月. 12 月）	89.3%	92.6%	96.8%
平均	93.3%	94.6%	96.1%

※平均＝年間就航便 2,337 便÷年間計画便数 2,505 便にて算出

(2) 航路について

航路による観光客は、下記のとおりであった。

区間・航路	入込観光客数	前年	前年との比較
長崎-福江 間	187,654 人	169,722 人	+17,932 人 (10.6%の増)
福岡-福江 間			
佐世保-福江 間			
大型客船	1,608 人	1,264 人	+340 人 (27.2%の増)
その他	973 人	744 人	+229 人 (30.8%の増)
航路 計	190,235 人	171,730 人	+18,505 人 (10.8%の増)

航路便については、佐世保-福江間の航路が平成 30 年 10 月から運航休止となったものの、長崎-福江間を中心に好調に推移し、前年比 18,505 人（10.8%）の増加となった。

ただし、7 月・8 月の多客期に悪天候等による欠航が全航路で 98 便（前年同期間：35 便）が生じ、夏季の観光入込客数が前年比を下回る要因となった。

4 観光消費額について

平成30年における観光消費額は86億7,600万円と推計され、前年に比べて14.5%、額にして10億9,800万円の増となっている。

(千円)

	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
観光消費額	7,209,614	7,364,362	7,227,980	7,578,511	8,676,653

5 主要観光施設の状況

市内主要観光施設の来訪者は、世界遺産構成資産の旧五輪教会堂、江上天主堂を中心に前年比を大幅に上回る結果となった。また、平成30年7月に開館した「山本二三美術館」は新たな名所として、より多くの観光客が訪れるよう、情報発信・営業活動に努めていく。

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
旧五輪教会堂 (世界遺産)	4,674人	7,378人	7,550人	14,934人
江上天主堂 (世界遺産)	8,917人	7,753人	5,755人	12,634人
堂崎天主堂	25,415人	21,996人	25,718人	33,200人
五島観光歴史資料館	13,956人	9,963人	13,009人	12,856人
山本二三美術館 (H30年7月開館)				7,099人

5 現状と今後の課題

① 五島市観光受入体制の整備

五島市の観光入込客数は、平成10年の235,876人をピークに、20万人前後の微増、微減を繰り返してきた。

教会群の世界遺産登録を見据え、平成27年に制定した「五島市まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、平成31年における観光入込客数を「26万人」とする

成果目標を掲げ、観光インフラ整備、おもてなし力向上、国内外誘客の強化、民泊・教育旅行の強化などに取組んできた。その間、観光入込客数も徐々に増加してきた。

そして、平成30年7月に待望の「世界遺産登録」が実現。五島市観光にとってまさに追い風となり、平成30年の観光入込客数は過去最高の240,131人を記録した。

今後は、「世界遺産効果」を長く持続させ、より発展させることが重要である。そのためには世界遺産に頼ることなく、他の観光資源の磨き上げとそれらを活用した商品造成等が急務となる。

また、より多くの観光客に少しでも長い時間滞在していただき、地域での消費にも繋がる体験プログラムの整備、充実にも取り組んでいく。

観光客の満足度向上とリピーターの増加を目指して、観光客のアンケートや旅行会社等の声を参考にしながら、宿泊施設・飲食店その他観光関係機関との連携を強化しながら、より一層、受入体制の整備に努めていく。

② 外国人観光客誘致事業

平成30年の外国人観光客数は、1,668人（前年1,478人）と推計され、前年比190人の増となり、この数値も過去最高を記録した。

	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
外国人観光客数	1,019人	1,399人	1,053人	1,478人	1,668人

外国人誘客事業については、平成25年度から国際交流員（韓国）を雇用し、韓国からの誘客のための営業活動や韓国旅行社・韓国神父の招聘事業を実施している。

平成30年は、韓国からの903人を最高に、アジア圏からの観光客が1,368人で全体の約82%を占めている。

また、市民を対象とした韓国語講座の開催など、国際交流の意識向上や受入環境体制整備の一環としての取り組みを行った。

インバウンド（訪日外国人旅行）については、これまでの韓国中心の誘客活動に加え、欧州市場への開拓にも取り組んでいく。

＜平成30年 国別外国人観光客数＞ (人・%)

地域別	アジア	欧州	北米	南米	オセアニア	その他	国籍不明	計
	1,368	59	64	0	10	10	157	1,668
比率	82.0%	3.5%	3.8%	0%	0.6%	0.6%	9.4%	100.0%
国別	韓国	中国	台湾	香港	アメリカ	フランス	その他	計
	903	134	125	125	50	29	302	1,668
比率	54.1%	8.0%	7.5%	7.5%	3.0%	1.7%	18.1%	100.0%

③ 情報発信、観光宣伝・PR活動

平成30年は世界遺産登録の影響もあり、数多くのテレビ・雑誌等の媒体に五島市が広く露出された。その影響もあり、全国1000市区町村を対象とした「地域ブランド調査2018」において、各種指標における順位は下表のとおり上昇している。

また、五島市東京・福岡事務所が事務所開設5年目を迎え、営業力及び旅行会社との関係性がより強固なものになったことで、旅行商品造成や宣伝PRに繋がった。

引き続き、ホームページなどでの情報発信強化に取り組んでいく。

<地域ブランド調査2018> (全国1000市区町村における順位)

	2016(平成28年)	2017(平成29年)	2018(平成30年)
認知度	539位	593位	496位
魅力度	240位	246位	177位
情報接触度	454位	493位	351位
観光意欲度	170位	155位	146位

※「地域ブランド調査2018」とは

全国の男女、20歳から79歳を対象に6月25日から7月25日にかけてインターネットで調査を実施(2018年の回答者:30,024人)。調査対象は1,000の市区町村と47都道府県のあわせて1,047の自治体。認知度、魅力度、情報接触度、観光意欲度、居留意欲度、産品購入意欲度、地域資源、市区町村のイメージなどについて設問。

④ 修学旅行誘致

体験民泊を平成26年に開始して以来、毎年、着実に増加している。平成29年には対前年比1,114人と大幅な増加となったが、平成30年に来島した修学旅行生は、26校(前年25校)4,129人(前年4,017人)であり、前年に比べて112人増加した。

	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
修学旅行生数	679人	1,308人	2,903人	4,017人	4,129人
うち体験民泊	17人	536人	2,248人	3,145人	3,144人

島ならではの体験メニューを掲げた誘致活動で、修学旅行生の増に繋がった。

民泊登録件数の増加と実稼働率の向上が課題であり、各地区協議会との協議・調整を十分に行いながら、課題解決に繋げていく。

⑤ 宿泊施設の魅力向上

宿泊施設情報（長崎県資料）によると、営業中の宿泊施設は前年比10施設増加。宿泊客実数、延べ宿泊客数、延泊のいずれも前年比増加となっている。

（※宿泊客実数、延べ宿泊客数は市調査による）

	平成 29 年	平成 30 年	
宿泊施設数	73 施設	83 施設	+10 施設（県資料より）
宿泊客実数（1）	90,050 人	104,506 人	+14,456 人（16.0%の増）
延べ宿泊客数(2)	128,296 人	150,211 人	+21,915 人（17.1%の増）
延泊(2)÷(1)	1.42 泊	1.44 泊	+0.02 泊（1.4%の増）

宿泊客実数、延べ宿泊客数ともに前年を15%以上上回った。また、僅かではあるが、滞在日数（延泊）も伸びている。

宿泊施設は、観光客が最も多くの時間を過ごす場所であり、そこでの印象が本市観光の印象を大きく左右する。おもてなし、寛ぎ、癒しを与える場として、また、地元食材を用いた五島の魅力を提供する場として、宿泊施設がもたらす影響は非常に大きい。

平成30年からは宿泊施設改修補助金制度による補助限度額を引き上げ、水回り、内装等の改修の支援を行っている。

これまでも、おもてなし向上のためのセミナー等にも参加いただいている状況ではあるが、引き続き宿泊施設との連携を図りながら、顧客満足度向上に取り組んでいく。